遺伝性乳がんの割合

全乳がんのおよそ5-10%

（男性乳がんの10～15%）

HBOCの特徴

- 若年で乳がんを発症しやすい
- 両方の乳房に乳がんを発症することがある
- トリプルネガティブ（エストロゲン受容体及びプロゲステロン受容体がなく、HER2発現がないタイプ）の乳がんを発症しやすい
- 男性で乳がんを発症することがある
- 卵巣がんを発症しやすい
- 他の臓器（すい臓，前立腺、黒色腫など）にもがんが発症しやすい

＊HBOCの方に必ずみられる（全て当てはまる）わけではありません

乳がん患者さんに対するHBOCの遺伝子検査（BRCA1/2遺伝子検査）は、以下の基準に合致する方については保険診療（20,200点、3割負担で60,600円）で実施することができます。

- ✓ 45歳以下の乳がん
- ✓ 60歳以下のトリプルネガティブ乳がん
- ✓ お一人で２個以上の原発性乳がん
- ✓ 血縁者に乳がんまたは卵巣がんまたは膵臓がんを発症した人が１人以上いる
- ✓ 男性乳がん

「遺伝性のがん」「遺伝性乳がん卵巣がん」に関するご相談に対応できる医療機関は、下記QRコードより確認できます。

全国遺伝子医療部門連絡会議

一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構（JOHBOC）

より詳細な情報が記載されている教材冊子は、以下のQRコードよりアクセス可能です。是非ご活用ください。

第1版　2024年1月発行

本冊子は科学研究費助成事業（研究課題：20K18159／女性特有癌の効果の検証）の研究助成で作成されています。

認定遺伝カウンセラーによる乳がん教材

～乳がん患者さんのご家族・血縁者向け冊子～

乳がんを知って
健康管理に役立てよう

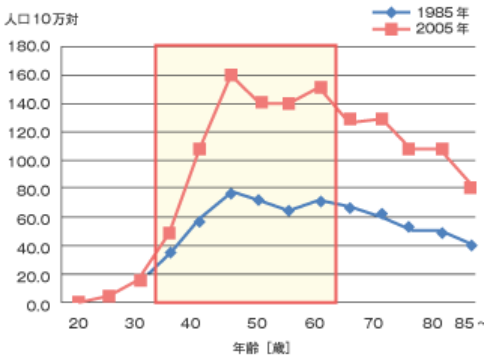
乳がんについて

一生涯のうちにがんに罹患する確率は、**男女ともに日本人の約2人に1人といわれています。**

日本人女性において最も頻度が高いがんは乳がんであり、2019年には約9.7万人の女性が乳がんと診断されています。つまり、日本人女性の**約9人に1人が乳がんと診断**されています。

年々、乳がんと診断される日本人女性の数が増えてきています。

乳がん年齢別罹患率



参照：国立がん研究センターがん対策情報センターより

乳がん罹患率は、30歳後半から増大し、**40代後半と60代前半にピーク**があります。

乳がん進行度と10年後の生存率

ステージ	生存率
ステージ Ⅰ	99.0%
ステージ Ⅱ	90.7%
ステージ Ⅲ	68.6%
ステージ Ⅳ	19.4%

参照：全がん協部位別臨床病期別10年相対生存率（2013-2014年診断症例）

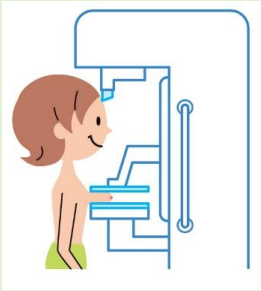
乳がんは**早期に見つかるほど、10年後の生存率が高い**ことが示されています。また、**乳がんは早期診断が可能**ながんです。

早期発見により生存率が高まるため、

定期的な検診受診が大切です

乳がん検診の方法

マンモグラフィ



自治体の検診では2年に1回の実施が無料

超音波検査

乳腺濃度が高い方・若い方では、マンモグラフィよりも有効な場合も

自己触診・自己検診（セルフチェック）

左右差や凹み、引きつれがないか？

4本の指をそろえ、渦巻きを描くように！しこりはないか？

セルフチェックは毎月実施

➔異常を見つけたら、すぐに乳腺専門医の診察を！

推奨される乳がん検診

区分	４０歳未満	４０歳以上	ハイリスク※（年齢問わず）
検診頻度・方法	・ 毎月の乳房セルフチェックを習慣に	・ 国の方針では2年に1回自治体検診（マンモグラフィ）を推奨できれば、その間に超音波検査を入れるなど毎年実施を検討	・ 毎年実施 ・ 通常よりも精密§な乳がん検診を §検診頻度や方法は乳腺専門医と相談を

※ハイリスク：乳がんの家族歴（若年発症、多発がん）がある場合

乳がん検診の方法：

① 住民票がある市区町村の自治体でのがん検診
② お勤めの会社の健康診断（オプションで追加）
③ 健康保険証に記載されている健康保険組合を通じての検診（人間ドックの割引など）
④ クリニック等での人間ドックやがん検診